



Webオープンスクール 資料

「全通研ってなあーに？」

～どんな活動をしているの？～」

2026年2月28日(土) 13:30-15:00

**一般社団法人 全国手話通訳問題研究会
(略称 全通研)**

会長 渡辺正夫



本日のお話し

- 1 歴代の会長
- 2 手話サークルの誕生
- 3 全通研の発足
- 4 手話通訳制度の確立
- 5 健康を守る運動
- 6 おわりに



1 歴代会長

職名	代	氏名	在任期間	備考
運営委員長	初代	伊東 雋祐	1974年6月～2004年5月(30年)	2004年～2005年 名誉運営委員長
	2代	市川 恵美子	2004年5月～2010年5月(6年)	
2010年5月～2011年10月(1年半)			全通研法人化に伴い職名を会長に変更 在任中に逝去	
会長	3代	石川 芳郎	2011年11月～2016年5月(4年半)	
		渡辺 正夫		





2 手話サークル誕生

誕生

- ろう運動の先進地域に手話サークル誕生
- 手話学習会「みみずく」
1963(昭和38)年9月1日
- 一般市民が継続的に手話を学ぶ組織
- ろう者(西田一さん)の入院⇒コミュニケーション
- 一人の准看護婦(京都第二赤十字病院)
中島千代美さんの願いがきっかけ
- 夜間高校生を中心に12人でスタート
谷勇男さん(のちの全通研初代事務局長)

※「MIMI第144号」参照

准看護婦として働きつつ、夜は定時制高校に学んでいるという女の子が聾学校に訪ねてきました。
「患者さんに耳の聞こえない方があって、この人への医師の対応がたいへん不親切。私が手話が出来たら……何とか手話を覚えたいので教えてほしい」というのが訪問の目的でした。

「歩む」伊東雋祐著 2001年5月5日

目的

- 「手話を学んでろう者のよき友となり、共に手をつないで差別や偏見のない社会を実現するために努力する。そのために必要な学習や事業を行うこと。」



2 手話サークル誕生

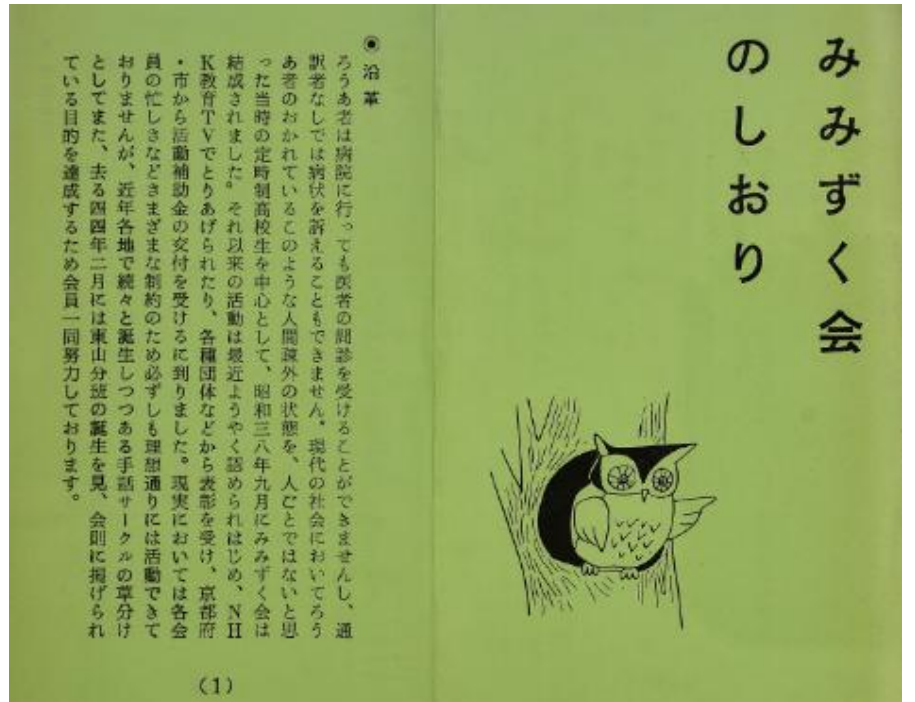
- ろうあ者は病院に行っても医者問診を受けることもできませんし、通訳者なしでは病状を訴えることもできません。

現代の社会においてろうあ者の おかれていたこのような人間疎外の状態を、人ごとではないと思った

当時の定時制高校生を中心として、
昭和38年9月にみみずく会は
結成されました。(みみずく会のしおり)

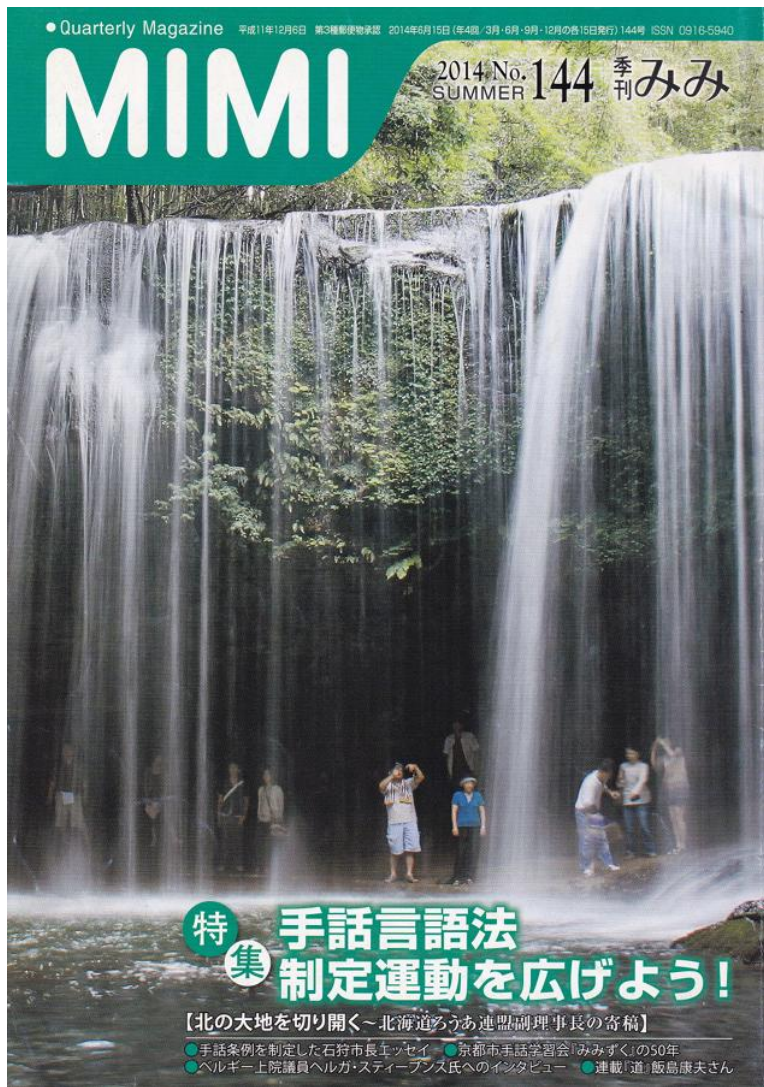
※1963(昭和38)年9月1日発足

※2023(令和5)年10月9日 創立60周年記念





2 手話サークル誕生



昨年で創立50年を迎えた日本最長の歴史を持つ手話サークル、京都市手話学習会「みみずく」が、全日本ろうあ連盟の2014年度厚生文化賞を受賞することが決まりました。今年6月の長野県開催の全国ろうあ者大会で受賞されることを契機に、このサークルの50年の活動を振り返ります。

【写真】第60回全国ろうあ者大会でろうあ者とともに「京都物語」の手話コーラスを披露

みみずく会の目的
手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしてゆくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していくことを目的とする。

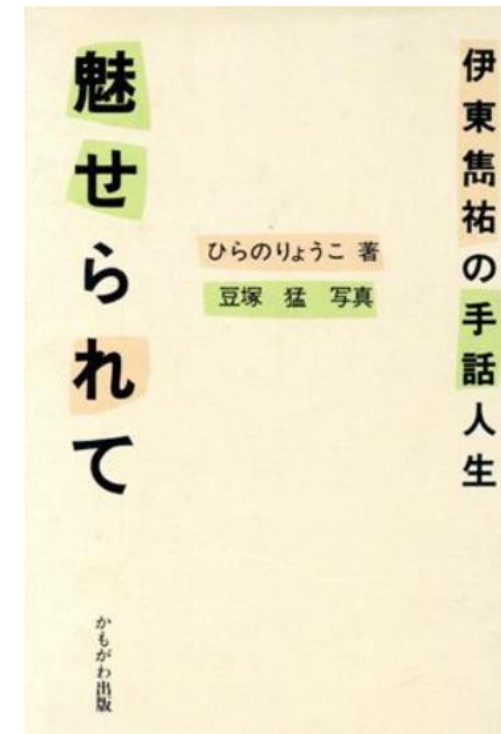
みみずく誕生の背景
みみずく会設立前に京都府内にいた手話通訳者はただ2人。全国手話通訳問題研究会の初代運営委員長の故伊東 篤祐さん（府立ろう学校教師）と向野嘉一さん（府立身障センター内のろうあ者更生施設の手話のできる指導職員）でした。
昭和38年、看護師であり、夜間学生であった中島千代美さんが勤務する病院に入院してきたろう者と医師や看護師たちの意思疎通の行き違いがありました。戦後の民主教育を受けてきた彼女は、もっとよい看護がしたいと思ひ、伊東さんをたずね、向野さんを紹介されました。向野さんは個人的にはなく、集団的にろうあ問題を学ぶことをアドバイスしました。中島さんは夜間学生の仲間と呼ばひかけ、夏休みを利用して、向野さんを中心とした手話の指導を受ける中で、ろうあ者の問題と自らを受けている差別の問題との共

- 手話条例を制定した石狩市長土井ツセイ ● 京都市手話学習会「みみずく」の50年
- ベルギー上院議員ヘルガ・スティーンブス氏へのインタビュー ● 連載「道」飯島康夫さん



2 手話サークル誕生

- ・ 糺の森 京都府立身体障害者福祉センターろうあ課 向野嘉一さん
千本通り中立売 西陣の宿 丹後屋に生まれ 4人きょうだいの一人息子
お母さんは聞こえない人
- ・ 立命館大学卒業 貿易会社に就職
母親から「明石欣造京都府ろう協会長さんの紹介で手話通訳者として
京都府でやってみてはどうか」と言われて福祉センターに就職
- ・ 福祉施設で働く人やそこにいる人の問題の解決の糸口を見つける仕事
聞こえない人の閉ざされていたコミュニケーションがようやく開かれた
- ・ 中島さんが向野さんに手話の教を乞いにいく
向野さんからは「それやったら、5、6人、人を集めておいで」
- ・ 集団の中で聴覚障害者のの問題をいろいろ学びながら覚える手話こそ、
ほんものだ



伊東雋祐の手話人生



2 手話サークル誕生

“みみずく会”生まる

手話をおぼえようと

ろうあ者は一般に健聴の人たちとの意見疎通にこと欠きであることにかんがみ京都の若い健聴の人々がコミュニケーション手段としての手話をおぼえ、ろうあ者と交わり親しくしようとする「みみずく会」なるものをつくった。この会の結成に参加した人は立命館高校、同志社高校、同志社大学の学生さんたちが中心で、街でみかけたろうあ者の手話に興味をおぼえ、最初の間は好奇心と面白半分であったのが、京都府身障者福祉センターの向野先生から話を聞いているうちに、ろうあ者の苦しみや悩みにうたれ、真剣にろうあ者のために役立とうと考えるようになった。それで同好の人々をつのった結果、思いがけぬ多勢の人たちが関心を示めしたので、集団をつくり名も「みみずく会」と称して正式の発足をみたもの。ただ手話をおぼえるだけでなく、ろうあ協会の各種の行事にも積極的に参加、また連絡や外部との交渉などろうあ者に困難な役割を引きうけるなど、協会活動にとけこむ努力ぶりである。近い将来に通訳となり、ろうあ者の耳代わりになろうといふ出ず会員もでている。なおこの会では機関紙「みみずく」を旧ろう発行了した。かかる会はろうあ者の社会的地位の向上に役に立つ有益な団体でゆくゆくは強大な会に発展されることが切に望ましい。

都社協新年互礼会

東京都社会福祉協議会（足立正会長）では一月八日（当会の創立記念日）午前十一時から社会福祉会館三階ホールにおいて恒例の新年互礼会をひらいた。東京都ろう者協会からは坂東喜之助会長が出席した。

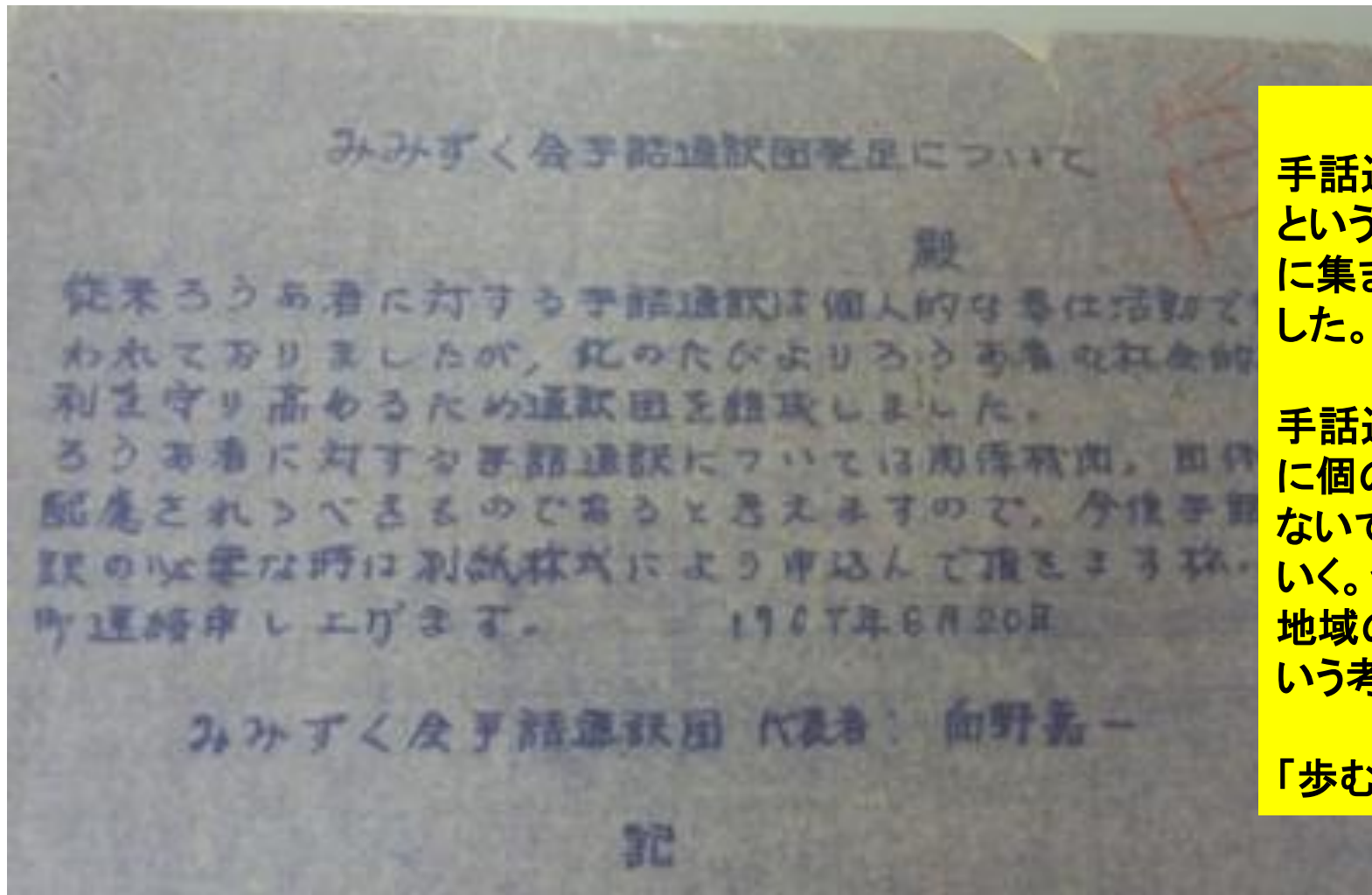


2 手話サークル誕生

- **みみずく会手話通訳団発足**
- 従来ろうあ者に対する手話通訳は、個人的な奉仕活動で行われてきましたが、此のたびよりろうあ者の社会的権利を守り高めるため通訳団を結成しました。
- ろうあ者に対する手話通訳については、関係機関・団体が配慮されるべきものであると考えますので、今後、手話通訳の必要なときは、別紙様式により申し込んで頂きます様御連絡申し上げます。
- 1967(昭和42)年6月20日
みみずく会手話通訳団
代表者 向野 嘉一(こうの かいち)



2 手話サークル誕生



手話通訳者としての資質を磨き合おうというのが、このみみずく手話通訳団に集まる私たちの基本的な考え方でした。

手話通訳という行為、行動、業務を単に個の行為、業務、活動に終わらせないで、手話通訳者全体のものとしていく。全体の通訳力として高め合い、地域の組織的な通訳力としていくという考え方です。

「歩む」伊東雋祐著 2001年5月5日



2 手話サークル誕生

- みみずく会手話通訳団発足
- 1967(昭和42)年6月20日 上段の5人で発足 その後下段の2人が加わる
- 自称7人の侍
1971(昭和46)年 第1回京都市公認(認定)手話通訳者試験合格者(敬称略)
『京都市手話学習会 みみずく 40年のあゆみ』から
村上中正 むらかみ ちゅうせい(京都府立山城高校教諭)
伊東雋祐 いたう しゅんすけ(京都府立ろう学校教諭)
向野嘉一 こうの かいち(京都府民生労働部)
藤井 進 ふじい すすむ(京都府教育委員会)
谷 勇男 たに いさお(京都市民生局)
佐瀬駿介 させ しゅんすけ(宇治市福祉事務所)
戸沢原章 とざわ げんしょう(京都ろうあセンター)



3 全通研の発足

- 1968(昭和43)年6月2日
第1回全国手話通訳者会議(福島県 福島市民センター)
- 第17回 全国ろうあ者大会
- 企画の一つとしてこの手話通訳者会議を設定
- 福島県の板橋正邦さん(全日本ろうあ連盟議長団)の想い
手話通訳者の語り合う場が必要だ 京都がやらないことをやろう
- ひとりぽっちで活動している手話通訳者が福島に参集 71人+福島県福祉事務所関係者26人
- 貞広邦彦(さだひろくにひこ)氏 「手話通訳の技術」
向野嘉一(こうのかいち)氏 「通訳実践活動の立場」
大久保襄(じょう)氏 「手話通訳の必要性」 蛇の目寿司事件の裁判通訳
田上隆司(たのかみたかし)氏(栃木県立聾学校) 「同時法」
伊東雋祐(いとうしゅんすけ)氏 「手話論」 → 通訳論

※「翔びたて全通研 20年のあゆみ」

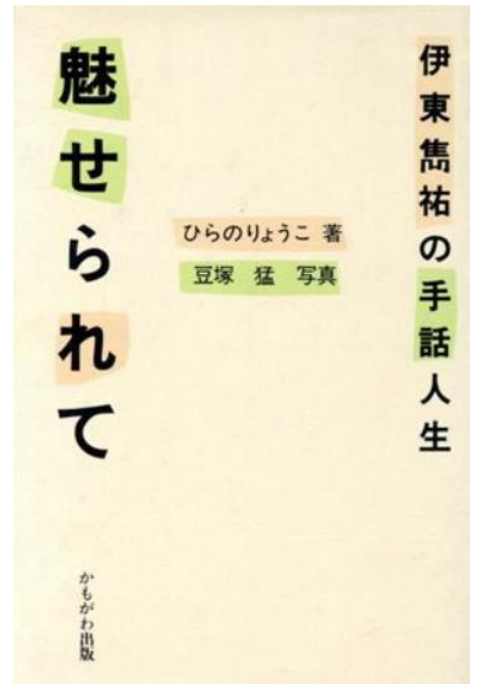
全国手話研修センター 手話総合資料室 新着の現物資料一覧へ 伊東雋祐で検索



3 全通研の発足

「魅せられて」より

- 福島県の板橋正邦さん(全日本ろうあ連盟議長団)の想い
- 福島市生まれ 家業は印刷工場
- 小・中学校は普通の学校 高等部からろう学校
- 中退して東京教育大学附属ろう学校に転校
- ろうあ者同士の世界だけ閉じこもっていたのではいけない。こちらから、聞こえない人にどんどん働きかけていかなければ駄目だ。
- 誰もが町へ出てバスに乗っていても、歩いていても、ろうあ者だということが人に知れないように、手話も使わず口もつぐんだままでした。そんな馬鹿なことではない。聞こえなくても人間ではないか。人は誰もがそうであるように、見たこと、思ったこと、感じたことを表現し誰かに伝え、心を通わせることで豊かに生きていける。それなのにろうあ者だけが何故、ひっそりと手を押さえ、口をつぐんで生きなければならないのか。
- とりわけ、手話をする人の少ないことが問題でした。まだ、手話通訳という言葉すら市民権を得ていない頃です。





3 全通研の発足

「魅せられて」より

- 数は少ないが全国で手話をやる人、やろうとしている人々が集まる機会を持ちたいと考えました。
- ろう学校で熱心に手話をやっている先生がいることも知っていました。口話教育中心の当時のろう学校で、手話をやる先生がいることは、板橋さんの胸にひとつの灯りをともしました。
- (その先生こと伊東雋祐先生です)
- 全国の手話の人たちを集めたい。
- 板橋さんの計画に伊東さんは身を乗り出して聞きました。「それはいい、やりましょう」伊東さんの言葉に励まされ、板橋さんは、その実現のために奔走しました。
- 1968(昭和43)年6月2日
第1回全国手話通訳者会議(福島県 福島市民センター)
第17回 全国ろうあ者大会といっしょに開催



3 全通研の発足

伊東雋祐氏 「手話論」 → 通訳論 1968 (昭和43) 年
「手話通訳問題研究(1)」 1984 (昭和59) 年7月25日発行より

提出論文より

- 手話を使って通訳するとき
手話が出来ることがイコール通訳が出来るとはではない。

通訳の必要性とその意義

- 刑事訴訟法でも筆談による意思疎通が認められている。しかし、私はそうは考えない。なぜならただちに反論、間髪を入れない発言、主張ができるから、民主主義の側面、権利の主体、一方通行でなく、平等な意思の表現、ろうあ者が自由に生き、発言し、より社会的に生活するために必要である。(中略)
ろうあ者の通訳とは、権利を奪還し、保護してやる。



3 全通研の発足

- 第1回 全国手話通訳者会議(福島県・福島市民センター) 1968(昭和43)年6月2日 71人
- 第2回 全国手話通訳者会議(熊本県・熊本市民会館) 1969(昭和44)年5月10日・11日 61人
- 第3回 全国手話通訳者会議(東京都・全国町村議会会館) 1970(昭和45)年5月2日・3日 69人
- 第4回 全国手話通訳者会議(岡山県・岡山市役所) 1971(昭和46)年5月2日・3日 159人
- 第5回 全国手話通訳者会議(長野県・県土地改良会館) 1972(昭和47)年6月2日・3日 250人

決議文採択

会長は、伊東雋祐氏(京都)

運営委員として福島薫(ただす)氏(大阪)と貞広邦彦氏(東京)と向野嘉一氏(京都)

事務局長は、谷勇男氏(京都)に委嘱

- 第6回 全国手話通訳者会議(大阪府・府中小企業文化会館) 1973(昭和48)年5月2日・3日 261人
- 第7回 全国手話通訳者会議(青森県・青森市民文化センター) 1974(昭和49)年6月2日・3日 287人

全国手話通訳問題研究会 発足

※夏の集会サマーフォーラムは、第1回福島から積算しています。
今年8月開催の「サマーフォーラムinしずおか」は、第59回です。



3 全通研の発足

- 1972(昭和47)年 第5回全国手話通訳者会議(長野県)
- 6月3日の午前11時から全員集会(250人の参加)が開催され、以下の3点が確認された。
 - ①「**決議文**」が満場一致で採択される
 - ②ろうあ連盟の協力を得て、ブロック(全国9ブロック)を組織していく
 - ③会長は、伊東雋祐氏(京都)
運営委員として福島薫(ただす)氏(大阪)と
貞広邦彦氏(東京)と向野嘉一氏(京都)
事務局長は、谷勇男氏(京都)に委嘱



3 全通研の発足

決議文

- **ろうあ者の生活と権利を守る**基本的立場において通訳活動の実践にとりくみます。
- 通訳活動の実践を通じてろうあ者問題の認識を深めそれをより多くの人々に広めます。
- 私たちは常にろうあ運動と連帯し、手話通訳保障の実現につとめます。
- 私たちは手話通訳者の身分保障、活動保障を実現させるために努力します。
- ろうあ団体と協力して手話通訳者の全国的な組織をつくります。
当面ブロックでの組織化をはかります。
- 私たちは常に手話および通訳問題の研修を深めます。

1972(昭和47)年6月3日



3 全通研の発足

- 1974(昭和49)年 第7回全国手話通訳者会議(青森県)
個人加盟の全国組織として
「全国手話通訳問題研究会」(全通研)を6月3日に結成
会員数287名 会費1,000円 予算総額 287,000円

「魅せられて」より

- 静岡県 鈴木誠也さん(発足時 会計監査) ろう学校の先生
- 1950(昭和25)年 ろう学校へ 教師と生徒がもっと自由に手話が出来ないのか
- 伊東雋祐先生と会う
- 手話を個人的な奉仕活動だけで終わらせるのではなく、
聴覚障害者の権利を守る闘いとして考え取り組もう
1970(昭和45)年 松島謙司さんの解雇事件
- 全国に点在している手話通訳者をもっとしっかりした絆で結ぶために
支部づくりに尽力された
- 山口(1974年)、大阪(1975年)、京都・静岡(1976年).....
47都道府県に支部結成 1990(平成2)年



3 全通研の発足

- 機関誌 第10号 1979(昭和54)年3月 手話通訳問題研究(2)
- 「**全通研支部結成について協力の依頼**」 協会長・連盟理事各位
全日本ろうあ連盟 企画部長 高田英一 1978(昭和53)年12月1日
「手話通訳問題の発展は、ろうあ者の今後の生活と権利を守る上で重要なポイントとなります。そのためには、地域的、日常的通訳活動と結びついた通訳問題の集約的、組織的研究と運動が重要です」
- 「**全日ろう連の『全通研誌部結成について協力依頼』について**」
全通研運営委員会 1979(昭和54)年1月
「手話通訳活動とは、ろうあ者の生活と権利を守る運動と共にある事とその基本的課題であることは言うまでもありません。このような観点からわれわれは、ろうあ運動と連帯に根ざした手話通訳活動ととりくみ、その質的な向上をはかるため、組織的な研究・運動が、今やきわめて重要な時期であると判断しています」
- 「**全通研支部結成について特別協力要請の件**」 協会長殿
全日本ろうあ連盟 書記長 竹島昭三郎 1979(昭和54)年3月16日
「全通研53年度会員が20名以上いて支部未結成の8都道府県を最重点県として、7月(第12回全通研集会-福岡)までに支部が結成される様、要請する」



3 全通研の発足

1 手話やろうあ者問題に関わる全ての人々を呼びかけの対象にした

2 研究・運動団体

研究＝疑問を持ち、課題を見つけ、多角的に検証する

運動＝市民が民主主義を基礎に、権利意識を自覚し、あらゆる

困難を克服して目標を達成する

3 目的 **聴覚障害者と手話通訳者の社会的地位の向上をめざす**

4 基本理念は

(1) ろうあ者の暮らしから学ぶ

(2) ろうあ者集団と共に歩む

(3) ろうあ者の権利を守る手話通訳活動 → 共同の権利主張者

• ものさし → 私たちと同等の権利が保障されているか？



3 全通研の発足

「魅せられて」より

- 2代目全通研事務局長 小出新一さん
岐阜県大垣市生まれ
立命館大学卒
京都ろうあセンター職員
その後、綾部市福祉事務所職員
現在、全国手話研修センター常務理事
- 「手話知らんですんません」かもがわ出版
1987(昭和62)年6月15日初版発行より





3 全通研の発足

「手話知らんですんません」より

1972(昭和47)年「住民の暮らしを守る」を公約にかかげた新しい羽室市政が生まれ、このろうあ者の願いを積極的に受けとめ、手話通訳者の採用となったのである。

ブームはろうあ者の暮らしを豊かにしたか？

- 最近、手話教室や講習会に行くと「この手話はこちらが表ですか、裏ですか」「この指は伸ばすのですか、まげるのですか」「あのろうあ者の手話とこちらのろうあ者の手話と違いますが、どちらが本当ですか」などなど熱心な受験生の質問を受ける。よくもまあそこまで細かく勉強できるなあと感心するのと同時に、それだけでいいのかなあつつねづね感じている。もちろん、私たち手話を広げていく立場の者として、できるだけ手話をわかりやすく、覚えやすく整理をし、楽しい講習会をすすめていくことは大切なことであることはまちがいない。



3 全通研の発足

「手話知らんですんません」より

- しかし、それ以上に大切なことは、聞こえる者がなぜ手話を覚えるのか、自らがろうあ者や手話との出会いを通じてどう共に生きていくのかを常に基本にすえなければ、手話技術の獲得はなんら意味をもたないのではないかと思うからである。むずかしいことを言わずに、とにかく手話さえ国民の間に広がればろうあ者は幸せになる、ろうあ者の暮らしは豊かになるという考え方があるが、私はこの考え方には大きな疑問を持っている。それは、ろうあ者の問題は単にコミュニケーションだけの問題では決してなく、もっと多くの社会的なさまざまな問題があるからであり、それらの問題をともに考える立場が必要であると思うからである。



3 全通研の発足

「魅せられて」より

- 初代全通研事務局長 谷勇男さん
京都西陣生まれ
同志社商業高校定時制
手話学習会「みみずく」を立ち上げる
全国初の京都市の専任手話通訳者
- 「日本聴力障害者新聞」より





3 全通研の発足

「日本聴力障害者新聞」1970(昭和45)年5月1日より

- 昨年3月、京都市がろうあ協会のねばり強い要求に対してやっと手話通訳1名の採用を決定、ただし身分は当分のところ囑託と回答して来た時、谷さんは一つの決断にせまられた。(中略)
- 市の囑託となれば身分は不安定な上に月収は3万円ぐらいにさがり、定期昇給も賞与もない。それでも谷さんはだまって後者の道をえらんだ。
- ろうあ協会から当然の抗議がくり返しくり返し京都市に対して出された。「市がもしろうあ者にたいする手話通訳の重要性を認めるなら、なぜ谷さんに不安定な身分のまま手話通訳をさせるのか」。事実、手話通訳の仕事は夜間に呼び出されたり、遠いところまで行かなければならない場合も多かったが、囑託の身分のため、超勤手当も出張費も出なかった。これに対して市はろうあ協会のいいぶんを認めながらも、定員1名増のため予算を財務の方で承認しないので……という説明をくり返すだけだった。
- 3月末、ろうあ協会がさいごのハラをかためて対市団交の準備をすすめている時やっと正式採用決定の連絡が入って来た。そして、全国初の公務員専任手話通訳が誕生した。



3 全通研の発足

1974 (昭和49) 年 全通研 287人で誕生 山口支部結成

1984 (昭和59) 年 全通研創立10周年 (京都)

1990 (平成 2) 年 47都道府県に支部結成

1994 (平成 6) 年 全通研創立20周年 (富山)

2001 (平成13) 年 1万人会員達成

9月26日未明 10,021人

9月29日支部長会議 10,060人

「数は力、力は質の証」全通研の底力

当時の山崎組織部長談話

2004 (平成16) 年 全通研創立30周年 (愛知)

2010 (平成22) 年 一般社団法人取得

2014 (平成26) 年 全通研創立40周年 (福島)

2024 (令和 6) 年 全通研創立50周年 (兵庫)





3 全通研の発足（10周年・20周年）

1983年全通研結成10年記念

手話通訳問題研究誌

合本
創刊号から13号まで

準備すすむ！
限定発行
1984年夏発行

新たに第1回全国手話通訳者会議の報告なども追加。

手話通訳問題研究誌合本発行予定(5,000円予定)を昨年夏発表したところ、全国から予約申し込みがありました。現在予定の500部には達していません。しかし、全通研編集局としては、貴重な研究資料のため財政困難をのりこえ、発行にむけ努力を重ねています。そして、新たに、第1回全国通訳者会議（福島）～第2回全国通訳者会議の報告書、資料も追加することになりましたので、予約を多数申し込んで下さい。

申し込み方法 本誌のハガキに住所、氏名、電話など記入して、郵送して下さい。
発行について 申し込み者（予約者）が、500人に到達した時点で合本を作成し、予約者に優先的に送ります。
販売価格について 予定としては5000円と考えていますが、印刷費等かなりの費用を必要としますので、予約者には、改めてお知らせします。
問い合わせ 全通研本部まで。

10周年 合本

翔びたて 全通研

20年のあゆみ

全国手話通訳問題研究会

20周年 記念誌

全国手話通訳問題研究会20周年記念実践記録

手には汗 心は涙

全国手話通訳問題研究会



3 全通研の発足（20周年）

目次

- 全通研シンボルマーク決まる！..... 1
- 創立20周年記念レセプションを開催..... 2
- シンボルマーク入選に町中が祝福..... 2
- アメリカ手話通訳事情・6月と9月で実施..... 3
- 第3回けいわん患者の全国交流会..... 3
- 全通研20周年記念 記念誌・実践記録集・グッズ案内..... 4
- パンフの学習・普及運動の推進について..... 5
- 政見放送研究会報告に対する事務局長見解..... 5
- 8・27支部代表者会議 一富山市.....
- 第11回全国手話通訳問題研究討論集会..... 7
- 開催要項..... 7
- 分科会討議の柱..... 10



1994年11月30日発行

全通研シンボルマーク決まる！

○ 20周年キャラクターマークも同時に発表

創立20周年を記念して全通研のシンボルマークを設定しようと各支部に図案の募集を行ったところ、72点の応募がありました。担当の九州ブロックの募集委員会、20周年企画委員会、運営委員会、そして支部代表者会議での人気投票と競選を重ねた結果、福井支部の村中定男氏の作品が選考されました。

優秀な作品が多く、当初は予定していなかった20周年記念キャラクターマークとして、京都支部の持田隆彦氏の作品を同時に選ぶことになりました。



全通研マーク

この2つの作品は、プロのデザイナーの協力を得て若干の修正を

行い、8月に開かれた全通研富山集会の場で公表、そしてレセプションにおいて表彰を行いました。

左側が聴覚障害者
中央が手話通訳者
右側が国民
手話通訳により聴覚障害者と国民をつなぐ役割を表現した



3 全通研の発足（20周年）

シンボルマーク入選に町中が祝福

—福井県・丸岡町—

全通研のシンボルマーク



全通研

全国手話通訳研
シンボルマーク

村中定男さん

村中さん(丸)の作品採用

全通研のシンボルマークに、福井県丸岡町の村中定男さんの作品が採用された。村中さんは、手話通訳者として活躍している。この作品は、手話通訳者の姿を表現している。採用されたのは、全通研のシンボルマークとして、全国の手話通訳者にとっての象徴となる。村中さんは、この採用を大変喜ばれている。また、この作品は、手話通訳者の姿を表現している。採用されたのは、全通研のシンボルマークとして、全国の手話通訳者にとっての象徴となる。村中さんは、この採用を大変喜ばれている。

町長祝電

村中定男様

全国手話通訳研究会の創立20周年記念でのシンボルマークに作品が採用され、誠にめでたうございます。日ごろ手話通訳でもご活躍の由、心から敬意を表しますとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

丸岡町長 高倉 忠

「広報まるおか 11月号」

点描

村中定男さん



耳の不自由な人のために、手話通訳者として活躍している村中定男さんの作品が、全通研のシンボルマークに採用された。村中さんは、手話通訳者として活躍している。この作品は、手話通訳者の姿を表現している。採用されたのは、全通研のシンボルマークとして、全国の手話通訳者にとっての象徴となる。村中さんは、この採用を大変喜ばれている。



3 全通研の発足（30周年）



伊東雋祐氏から
市川恵美子氏に
バトンタッチ

（2004年5月）



30周年 記念誌
CD-ROM付き



3 全通研の発足

- 2010(平成22)年 **一般社団法人取得**
責任ある団体として新たな出発
法人化に伴い運営委員長を「会長」に変更
- 定款 第5条 目的
- 本会は、手話及び手話通訳、ならびに聴覚障害者問題についての学習・研究活動を行い、**手話にかかわる人々の組織化を図る**とともに、一般財団法人全日本ろうあ連盟の運動をはじめとする聴覚障害者運動と連帯し、もって**聴覚障害者と手話通訳者の社会的地位の向上をめざす**ことを目的とする。



3 全通研の発足（40周年）

全通研40年のあゆみ

1974年～1983年

- 1974(昭和49)年
 - 6月 第7回全国手話通訳学会連合会(前身)
 - ※全通研前身の前身(287名でスタート)
 - 11月 第1年次総会(山口開催)
- 1976(昭和51)年
 - 8月 第9回全国手話通訳問題研究会(前身)
 - ※全通研より大会から分離、単独開催
- 1978(昭和53)年
 - 2月 第1回学術大会(東京15名)
- 1980(昭和55)年
 - 11月 札幌で第1回総会による公認手話通訳士が認定される
- 1982(昭和57)年
 - 9月 第1回全通研指導者講習会(福岡12名)
- 1983(昭和58)年
 - ※全通研の手話通訳士が初めて労働災害として認定される(札幌)

1984年～1993年

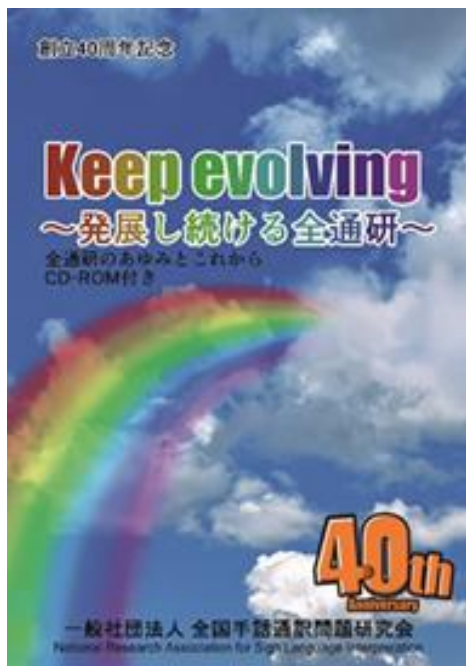
- 1984(昭和59)年
 - 8月 第1回全国手話通訳問題研究会(前身)
 - ※通訳士と計画を立案した初めての委員会(220名)
 - ※1回臨時議員会開催(法人化)を行な出す(東京)
- 1985(昭和60)年
 - 2月 第1回全国手話通訳問題研究会(前身)
 - ※「ライオンクラブ」120万部普及運動開始
- 1987(昭和62)年
 - 4月 東京都内に事務所設置(単独開催開始)
 - 10月 「聴覚障害者の家庭と学校について」(全国調査)実施(以降5年ごとに実施)
- 1990(平成2)年
 - 7月 47都道府県に支部組織
 - 10月 「聴覚障害者の家庭と学校について」(全国調査)実施(以降5年ごとに実施)
- 1991(平成3)年
 - 8月 第24回全国手話通訳問題研究会(前身)
 - ※初めて手話通訳者の特殊救済を実施(青森)
- 1992(平成4)年
 - ※全通研が聴覚障害者に対する委員会を設営
 - ※「全国手話通訳士」の名称・組織を守る会設立

1994年～2003年

- 1994(平成6)年
 - ※全通研創立20周年記念事業実施
 - ※会長として大塚洋子氏が就任
- 1995(平成7)年
 - ※日本ろうあ通訳士会に「国語・言語大震災被害救済対策本部」を設立
 - ※聴覚支援を目的とした全通研の手話通訳士連盟を設立
- 1998(平成10)年
 - 7月 「全通研学校」開始(第2会場で実施)
- 2001(平成13)年
 - ※第1回支部長会議開催(大阪)
 - ※障害者を差別する法律が改正、障害者を特定した差別的大規模差別的委員1万人を達成!
- 2002(平成14)年
 - 1月 「社会福祉法人全国手話通訳センター」設立
- 2003(平成15)年
 - 4月 支援費制度施行

2004年～2013年

- 2004(平成16)年
 - ※全通研創立30周年記念事業実施
 - 5月 伊東真由地連盟委員長就任(市川美子理事委員長就任)
- 2005(平成17)年
 - 3月 関係5団体で「聴覚障害者「自立支援法案」対策中央本部」を設立
 - 8月 全通研「高層ビル」実施
 - 8月 「U-350」プロジェクト
 - 10月 世界手話通訳者協会「WASLO」設立
 - ※アジア地域代表理事に市川真由子連盟委員長就任
- 2006(平成18)年
 - 4月 聴覚障害者立憲法施行
 - 4月 伊東真由地連盟委員長就任
 - ※全通研学校「1」開始(第3会場で実施)
- 2009(平成21)年
 - 4月 札幌で「ネットワーク型会議開始」
 - 12月 聴覚障害者立憲法施行
- 2010(平成22)年
 - 12月 聴覚障害者立憲法施行
 - 7月 法人化(一般社団法人全国手話通訳問題研究会となる)
 - 8月 「ライオンクラブ」普及、聴覚通訳開始
- 2011(平成23)年
 - 3月 第21回大会(311東日本大震災発生)
 - 3月 日本ろうあ通訳士会、日本手話通訳士協会とともに「東日本大震災被害救済対策本部」を設立
 - (全通研は震災への手話通訳問題研究を推進)
 - 8月 改正障害者基本法施行(手話通訳士は「聴覚障害者」として認められる)
 - 10月 市川真由子理事就任(市川真由子委員長就任)
- 2012(平成24)年
 - 2月 聴覚障害者立憲法施行
 - 10月 日本ろうあ通訳士会、日本手話通訳士協会とともに「社会福祉法人全国手話通訳センター」を設立
- 2013(平成25)年
 - 4月 聴覚者自立支援法の一部改正、聴覚者総合支援法施行
 - 1月 聴覚者総合支援法(2015年施行)
 - 10月 聴覚者立憲法施行
 - 2014(平成26)年
 - 1月 聴覚者総合支援法施行



40周年 記念誌
CD-ROM付き



フルカラー特別会員証

クリヤーファイル



3 全通研の発足（50周年）

創立50周年記念（会員 9,924人）

- 2024(令和6)年10月9日 式典・祝賀会
- 神戸商工会議所・神戸ポートピアホテル大輪田
- 記念誌「50周年記念誌」発行
- 新ビジョン策定（2025年～2030年）
- キャッチコピー「50年の絆その先へ 歩み続ける全通研」
- シンボルマーク「ふいーる (feel)」
触れあい、感じあい、目的を達成する
- 記念グッズ
多機能ボールペン、バンダナ、トートバッグ
絆創膏、ゆびもじクッキー、クリアファイル



機関誌第171号





3 全通研の発足（50周年）



記念式典 表彰者



祝賀会 会場



祝賀会 閉会のことば
故橋本博行副会長



4 手話通訳制度の確立

- 厚生省が実施
 - 1970（昭和45）年の手話奉仕員養成事業
 - 1973（昭和48）年の手話通訳設置事業
 - 1976（昭和51）年の手話奉仕員派遣事業
 - 都道府県や市町村での実施でさまざまな格差が生じる。メニュー事業予算の問題。
 - 聴覚障害者の社会参加の拡大とともにその手話通訳依頼内容も多様化・専門化し通訳依頼件数の増加とともに現行制度の限界が顕著化する中で、これまでのボランティア依存の制度からどんな通訳内容にも対処できる専門的能力を有する手話通訳者の設置・派遣、またそれらの通訳者が安心して仕事に従事できる身分保障の確立が80年代の重要な運動課題となった。
- ※①養成、②認定、③設置・派遣の3本柱からなる手話通訳制度
- 1982（昭和57）年 厚生省は、手話通訳制度調査検討事業をろうあ連盟に委託
 - 1985（昭和60）年 **「手話通訳制度調査検討報告書」**
「I Love コミュニケーション」パンフ普及運動
120万部 意見集



4 手話通訳制度の確立

- 1985（昭和60）年 手話通訳制度調査検討報告書
 - 手話通訳士の職務
 - イ）聴覚障害者のコミュニケーションに関すること
 - ロ）聴覚障害者への情報提供に関すること
 - この2点のみ
 - 現状の職務実態とかけ離れている
 - 第2回討論集会（1986年2月） 第1分科会「専任手話通訳者のつとめ」
 - ろうあ者に対して社会福祉制度や資源を紹介していく
 - 問題を組織（自分の所属する）として受けとめる
- ※専門的な仕事の中身を 19項目 → 14項目



4 手話通訳制度の確立

- ・ 第2回討論集会 第1分科会「専任手話通訳者のつどい」 専任通訳者の業務
 - 1 ろうあ者に対して社会福祉制度や資源を紹介していく
 - 2 問題を組織（自分の所属する）として受けとめ関連団体及び専門機関と連携して解決していく
（通訳者が丸かかえするのではなく、問題を整理する）
 - 3 通訳要求（ろうあ者の発展要求）を発展させていく
 - 4 自らが研修を企画し、登録を組織していく
 - 5 市民へろうあ者問題を広げていく
 - 6 派遣者への情報提供
 - 7 ケースをきちんと整理し、理論化していく
 - 8 地域とのつながりを持つ
 - 9 よりよい通訳活動をするための下地作りをする
 - 10 専門機関に対してろうあ者問題の提起と指導を行う
 - 11 ろうあ者に対する情報提供
 - 12 ろうあ者家庭への訪問援助（指導）
 - 13 ろうあ者福祉全般の企画立案
 - 14 ろうあ者集団や手話通訳者集団の連携（ろうあ運動とのつながり）



4 手話通訳制度の確立

- 報告書

1985（昭和60）年 全国ろうあ者大会（岐阜） 学習推進が話題に
「報告書」の内容を多くの人に知らせる分かりやすいパンフの作成

- I LOVE パンフ 運動

- ①読み手の対象は小学校6年生

- ②手話単語の普及

- ※手話や手話通訳のことをどのように理解してもらうのか

- ※国民の意見を聞く 国民の1%の120万人に意見を聞く

- 1985（昭和60）年7月13日 運動方針の確認

- ①初めて手話通訳について調査した。国民全体への「報告」

- ②国民からの意見をハガキに 意見集を作成する 全部で6冊

- ③基金は共同管理する 24,304枚（1987年3月31日現在）

※1冊200円 会員一人50部を普及



はじめに

昭和五十七年、厚生省は手話通訳制度の調査・検討事業をはじめるとを決定しました。

この事業は、財団法人全日本ろうあ連盟に委託され、ろうあ者、言語の専門家をはじめとする学識経験者、行政機関などがあつまって「手話通訳制度調査検討委員会」が発足しました。そして昭和六十年五月二十日、委員会は「手話通訳制度調査検討報告書」(以下「報告」)をまとめ、厚生大臣に提出しました。

六ページにおよぶもので、日本のろうあ者と手話の現状をときあかし、「手話通訳士制度(仮称)」のありかたについて提言しています。

このパンフレットは、「報告」の主旨を、より多くの国民のみなさんに理解していただくよう編集したもので、いわば「報告」のダイジェスト版です。添付のハガキを通じて、一人でも多くのかたから、ご意見、ご感想がよせられ、手話通訳制度がより豊かな形で実現することを願ってやみません。

目次

はじめに.....	1
第一部 ろうあ者(きこえない人)と手話について.....	4
1. 耳が聞こえないために.....	4
ろうあ者の生活をめぐる問題点.....	4
2. ろうあ者が社会に参加するために.....	10
ろうあ者のコミュニケーション.....	10
3. 手で話すこと.....	16
手話のはたらきと位置づけ.....	16
4. 手話をより発展させるために.....	18
5. 手話通訳者がかかえている不安や悩みは.....	20
ろうあ者のコミュニケーションを保障するために.....	20
第二部 手話通訳士制度(仮称)とは.....	23
第三部 手話教室.....	30





「手話通訳士」って
何をするの？

「手話通訳士」の仕事は、ろうあ者ときこえる人に手話や話しことばで、お互いの気持ちや意見が伝わるようにすること、またそれ以外にもいろいろな情報（こまごまとした）がろうあ者に伝わるようにすることです。

「手話通訳士」の
身分は？

「手話通訳士」は公務員（こうむいん）または、それと同じような身分とします。

「手話通訳士」の
責任は？

① 「手話通訳士」は、仕事をつうじて聞こえない人々の「社会への参加と平等」を実現するために努力します。

② 「手話通訳士」は、いつも研究・学習にはげみ、手話通訳の「腕（うで）」をみがき人間的にも成長する必要があらります。

③ 手話通訳をおこなうときは、一人ひとりの人権を大切に、そこで知った秘密（ひそかごと）は守らなければなりません。

「手話通訳士」に
なるには？

いくつかの条件のもとに国の「認定試験」に合格した人が「手話通訳士」になります。

「手話通訳士」は
どこで働くの？

① 都道府県、市役所、福祉事務所、身体障害者福祉センター、公共職業安定所（あていしよ）には、必ず「手話通訳士」がいるようにします。ろうあ者百人に一人を最低とし、約四千人の「手話通訳士」をおきます。



4 手話通訳制度の確立

- 運動をはじめて2年7か月

1988（昭和63）年3月31日段階

全国で122万9085部を普及

普及数 大阪 北海道 京都 神奈川 愛知 東京 静岡 長野

普及率 神奈川 山形 和歌山 青森 徳島

- 国への働きかけ

①国、各政党、国会議員へ要請

②1990（平成2）年6月30日 滋賀県の頸肩腕症の大村さん 労災としての認定

- 成果

①手話、手話通訳の基本的理解を広めた

②2団体（全日本ろうあ連盟・全通研）が団結して国民に働きかけた

③国に国民の意見として手話通訳の制度化を図っていった



4 手話通訳制度の確立

- ・1988(昭和63)年 「I Love コミュニケーション」 120万部達成
- ・1989(平成 元)年11月26日 手話通訳士認定試験(厚生大臣)
筆記試験 1097人(合格者 609人)
青森会場(東奥学園東奥保育福祉専門学院) 84人
東京会場(中央大学理工学部) 457人
大阪会場(大阪府立大学) 398人
熊本会場(熊本県立女子大学) 158人
- ・1990(平成 2)年2月4日 実技試験
東京会場(日本社会事業大学)
大阪会場(?) 大阪会場「祈 手話通訳士試験合格」
- ・1990(平成 2)年3月28日 発表
受験者 594人 合格者 197人(33.2%)
7割 女性 平均年齢 35歳





5 健康を守る運動

- 「おかあさんは手話通訳」
西川式子 (のりこ) 著 1995(平成7)年 発行
- 1974(昭和49)年～1991(平成3)年
札幌市専従手話通訳者 第1号 17年間
- 第1種非常勤職員の身分
身体障害者更生相談所採用 パートタイマー
- 当時、他に仕事を持ちながら無償で手話通訳活動をしていた私たちにとって、非常勤でも嬉しいことだった。
- とにかく、「依頼があれば答える」という状況で、自分の都合は全く無視し、身体の続く限り活動する、365日昼夜走り回っていたのが、手話通訳者としての私の10か月の様子だった。



- 冬の訪れを感じはじめた頃から腕に「だるさ」を感じ、知らず知らずの間に、両腕をソファの背や机の上に投げ掛けていました。
- 頸肩腕障害 自律神経失調症 1975 (昭和50) 年孤独

何かにすがってでも必死に生きようという気持ちは全くなく、ひたひたと迫ってくるのは、私はこの世の中から消えてしまうのではないか、というそんな不安でした。自分が自分でないような。時に絶望がある。なぜかそんな気持ちだけしか出てきませんでした。



5 健康を守る運動

- 大村洋子さん 労災認定
- 1987(昭和62)年 滋賀県ろうあ協会の専任手話通訳者
- 1988(昭和63)年 頸肩腕障害と診断
- 1989(平成 元)年 大津労働基準監督署 労災申請
- 1990(平成 2)年 労災認定

研究誌第23号
1984年8月



「ことばの天使」
ひらの りょうこ著
文理閣
1991年9月発行





5 健康を守る運動

時をつなぐ ことばを紡ぐ

— 頸肩腕障害と闘い続けた手話通訳者たちの想い —

発行／全国手話通訳けいわん患者・健康を守る会（患者会）
協力／一般社団法人全国手話通訳問題研究会 健康対策部

全国手話通訳けいわん患者・健康を守る会 顧問 埜田和史



・1988（昭和63）年の9月に、滋賀県の手話通訳者の女性を診療し、重度の頸肩腕障害と診断したことが、私にとっての「始まり」でした。手話通訳者の働き方や手話通訳に伴う心身の負担についてまったく知識がありませんでした。滋賀県には専任手話通訳者は彼女しかおらず、そのため、彼女の頸肩腕障害が手話通訳者によるものなのか彼女の特別の「働き方」によるものなのか、判断できない状況でした。そこで、1989（平成元）年には近畿地方の手話通訳者を、1990（平成2）年には全国の手話通訳者の働き方や健康状態についての実態調査を行いました。

その結果、北海道から沖縄まで各地の手話通訳者に頸肩腕障害患者が発生しており、すでの働けなくなった人や、このまま放置すれば重症化することが明白な手話通訳者が多数いることが判明します。

・地方で頸肩腕障害を診察できる医師が少ないため**1991（平成3）年の青森県での夏集会で検診**をしました。受診した各地の手話通訳者は予想以上に重症で、治療体制の整備や予防策の実施が緊急の課題と強く認識することになりました。



5 健康を守る運動

・重症な頸肩腕障害患者にとって一刻も早く休業して治療に専念することがその後の回復に大きく影響します。手話通訳者が治療に専念するためには、「休むこと」ができる体制の整備と、療養生活が経済的に保障される必要がありました。しかし、多くの地域で設置されている手話通訳者は1人であったため「自分が休めば地域の聴覚障害者の通訳保障が途切れる」と、休業加療の診断を拒否する手話通訳者が続出しました。

また、休職中の経済的な保障も乏しく休むに休めない状況がありました。また、当時、手話通訳者の健康を守るための働き方のルールはなく、「良い手話通訳者は長時間一人でできる通訳者だ」というような、危険な思い込みさえありました。

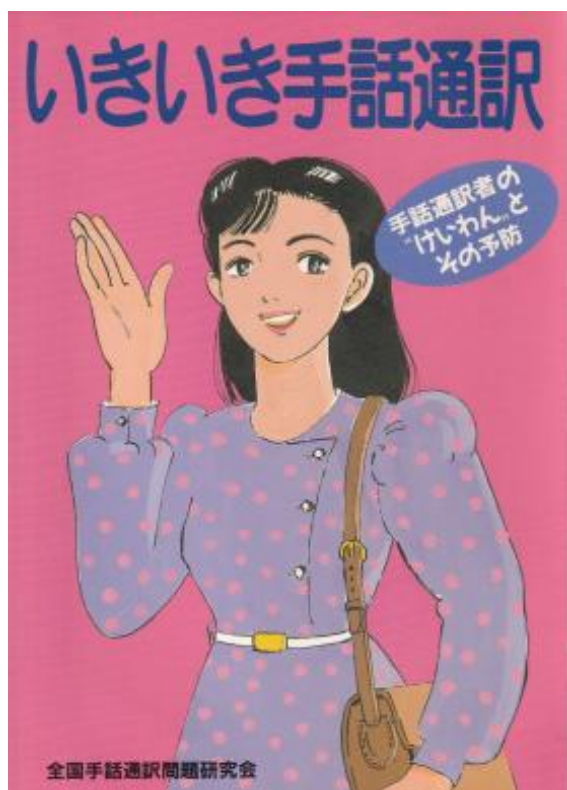
・頸肩腕障害から手話通訳者を守るルールを作るための委員会を組織し検討を開始します。長時間の通訳を交代で担当するなどの働き方のルールや、検診などの健康管理のあり方について検討を重ねました。

・「みんなでめざそうよりよい手話通訳」(よりパン)の作成に繋がった。



5 健康を守る運動

・1990(平成 2)年



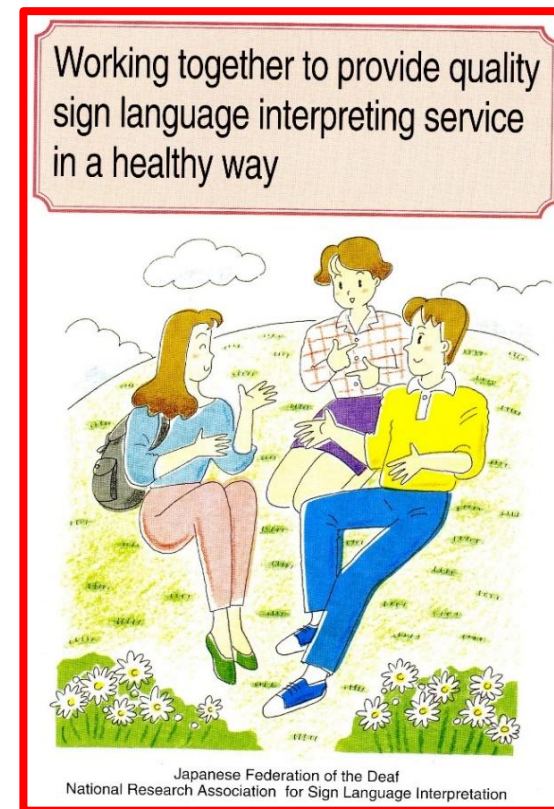
・1993(平成 5)年



・1994(平成 6)年



・1999(平成 11)年





1994 (平成6) 年

目 次

はじめに..... 4

A心がたい基本事項..... 6

①手話通訳を依頼する方々に..... 6

②ろうあ者の方々に..... 7

③手話通訳者の方々に..... 8

④手話通訳者の健康管理..... 9

Bいろいろな場面での手話通訳.....12

医療関係の場面.....12

会議の場面.....14

集会の場面.....15

教育関係の場面.....16

電話をかけるとき.....17

C手話通訳のよりよい環境を求めて.....19

手話通訳関係者の職場環境整備.....19

手話通訳関係者の働きやすい条件整備.....22

手話通訳に関する事項の照会先

- ・ 都道府県、政令指定都市の障害福祉所管課
- ・ 市町村の障害福祉所管課

最寄りの連絡先がない場合、下記団体に連絡・相談してください

財団法人全日本ろうあ連盟
〒162東京都新宿区山吹町130 SKビル8F
TEL 03-3268-8847 / FAX 03-3267-3445

全国手話通訳問題研究会 (略称、全通研)
〒602京都市上京区室町通今出川下ル 繊維会館1F
TEL 075 (451) 4743 FAX 075 (451) 3281

「ろうあ者がいつでもどこでも安心して手話通訳を頼める制度」「手話通訳者がいつまでも健康で通訳活動を続けたい」それぞれの願いが、今日なんと多くの問題にぶつかっていることでしょうか。

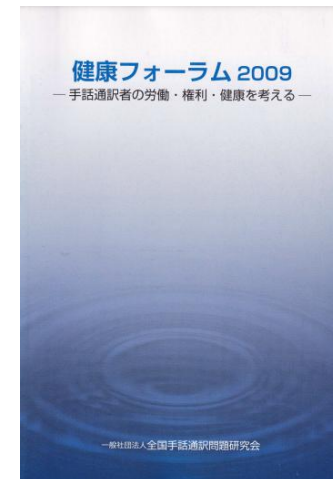
近年、ろうあ運動の高まりの中で、手話講習会や、手話サークルなどで学習をつみかさね、専門性を身につけた人たちが、手話通訳者として活動するようになりました。ろうあ者の社会参加の拡大にともない、手話通訳要請も年々広がる一方、派遣の需要をみたくどころか、絶対数不足のため過重な業務となり、手話通訳者の健康を脅かす深刻な問題がおきました。

これらの問題の一つひとつを解決するためにこれまでの実践をふまえて、財団法人全日本ろうあ連盟と全国手話通訳問題研究会で、共同討議を今日まで2年がかりでつみかさねてきました。「手話通訳の現場」では、頼む側、頼まれる側、設置する側、その他様々な関係者が関わりを持ちながら「よりよい手話通訳の環境づくり」のためにとりくまなければ、だれもが満足する手話通訳制度の保障はできないことを問題提起しています。

ろうあ者と手話通訳者だけが、手話通訳について考える時代は、もはや過去形となりました。これからは社会全体で手話通訳の実践を踏まえ、よりよい手話通訳制度の発展・健全な手話通訳の環境づくりの一助になることを切に願っています。



5 健康を守る運動





5 健康を守る運動

- 「雇用されている手話通訳者の労働と健康についての実態調査」
 - 全国手話通訳問題研究会では、1990(平成2)年から5年ごとに調査を実施してきた。
→ 2025(令和7)年 第8回の調査を実施
 - 2020(令和2)年は、第7回目の調査を実施。
2021(令和3)年3月報告書発行
 - 厚生労働省
令和2年度障害者総合福祉推進事業
 - 2020(令和2)年の調査から
(1)身分の確立を。「手話通訳=ボランティア」の考え方の払拭させ
専門職としての処遇を求めるべき。
(2)大学や専門的な教育機関で手話通訳者を養成するしくみに変えていく。
(3)正規職員として手話通訳者を採用する職場の増加が必要。手話通訳事業の
実施主体は地方自治体であるため、対象となる手話通訳者がいないと
いう現実がある。
 - 2025(令和7)年は、第8回目の調査を実施。
厚生労働省 令和7年度障害者総合福祉推進事業
- ※手話通訳者の身分保障がゴールではなく、地域の課題解決や行政の施策につなげていくためには、手話通訳者が職員として継続的にかかわることが重要。





5 健康を守る運動

・2015(平成27)年



・2016(平成28)年



・2021(令和3)年

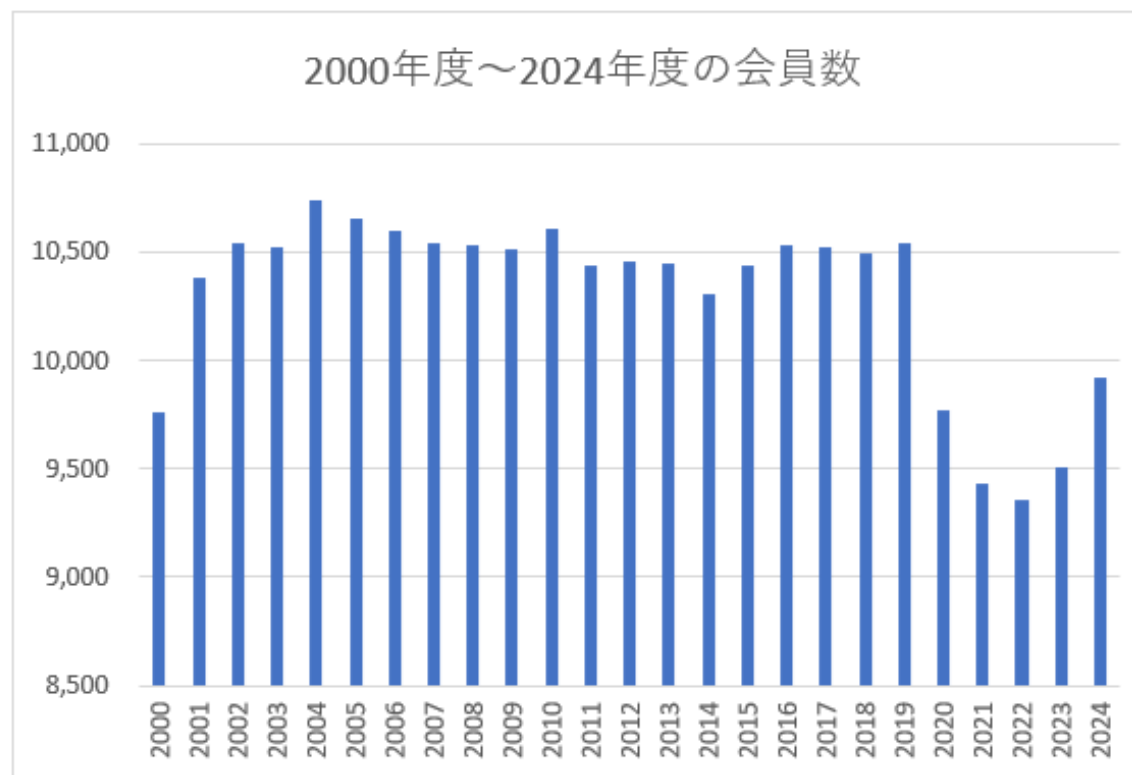


全通研創立
1974(昭和49)年
287人

7 おわりに

全通研創立50周年
2024(令和6)年
9,924人
8部局 → 4部局
理事25人 監事2人 参与2人

年度	人数
2000	9,761
2001	10,386
2002	10,539
2003	10,523
2004	10,737
2005	10,656
2006	10,600
2007	10,545
2008	10,529
2009	10,513
2010	10,603
2011	10,438
2012	10,460
2013	10,444
2014	10,307
2015	10,440
2016	10,531
2017	10,527
2018	10,491
2019	10,544
2020	9,766
2021	9,430
2022	9,352
2023	9,510
2024	9,924





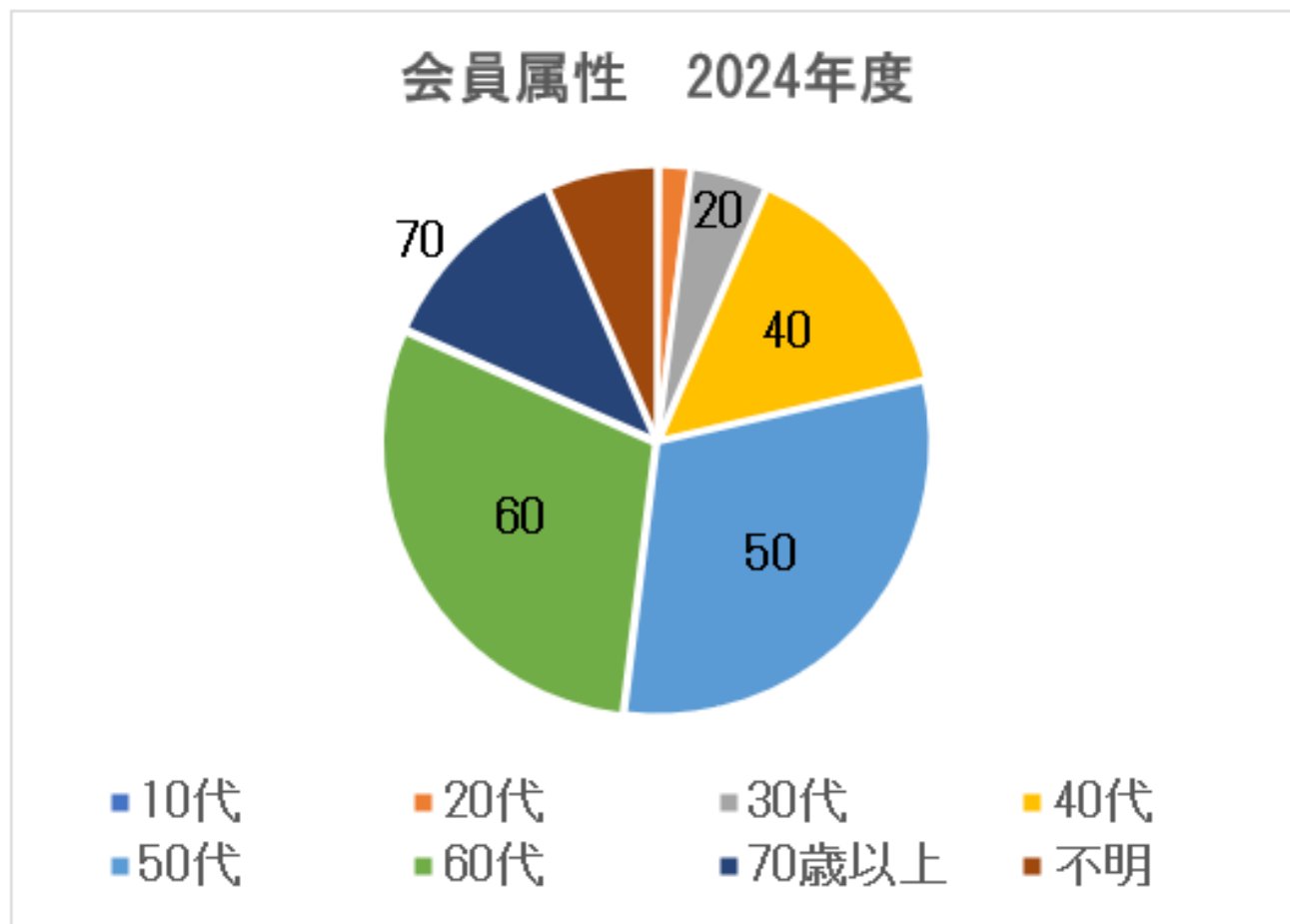
7 おわりに

全通研会員数
2025(令和7)年12月31日現在
10,046人

2024年度 会員属性

10代	11
20代	181
30代	448
40代	1,485
50代	3,027
60代	2,952
70歳以上	1,174
不明	646
合計	9,924

男	1,105
女	8,568
不明	251
合計	9,924





7 おわりに

【これからの課題】

- 全国手話通訳問題研究会（全通研=ぜんつうけん）
名称から手話通訳者の集まりと思われている
- 聞こえない人の問題を常に考える組織
- 全国にいる仲間とともに発展する組織（一緒に考える仲間の集まる場）
- 1万人を超える会員を組織する（裾野を広げていく）
9,986人（2025年11月30日現在）
- そのために私たちは、常に原則に立ち返って学んでいく必要がある。

定款5条

一般財団法人全日本ろうあ連盟の運動をはじめとする聴覚障害者運動と連帯し、もって聴覚障害者と手話通訳者の社会的地位の向上をめざすことを目的とする。



7 おわりに

第59回全国手話通訳問題研究集会

～サマーフォーラム in しずおか～



「継承と改革 静岡から未来へ」



2025年8月発行

日程：2026年8月28日(金)～30日(日)

会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ



実行委員長：鈴木 誠一

2026年8月28日(金)～30日(日)、第59回全国手話通訳問題研究集会 ～サマーフォーラム in しずおか～ を静岡県静岡市のグランシップで開催いたします。

静岡県は山も海もあり、雄大な富士山を望むことができる、気候も温暖でとても魅力的な場所です。会場となる静岡市には、徳川家康が住んでいた駿府城跡と日本一深い駿河湾を一望できる久能山東照宮があります。さらに、皆さんご存じの「ちびまる子ちゃん」の舞台としても有名です。また、お茶、みかん、わさび、桜えび、地酒も楽しんでいただけます。

今回のテーマは「継承と改革 静岡から未来へ」です。手話活動において、先達が築き上げた成果の継承と共に、時代に合わせた改革を進めよりよい社会づくりを進めるための大会にしていきましょう。

私たち実行委員会一同、静岡の地で全国の仲間と共に学び合い、語り合い、つながりを深める3日間をつくり上げてまいります。

皆さんとお会いできる日を心より楽しみにしています。ぜひ静岡へお越しください！
「おいでよ、しずおかで待ってるに！」

第59回全国手話通訳問題研究集会 ～サマーフォーラムinしずおか～ 実行委員会事務局

〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1番70号

静岡県総合社会福祉会館(シズウエル)5階 静岡県聴覚障害者協会

TEL：054-254-6303 FAX：054-254-6294 E-mail：59summer.sz@gmail.com

集会ホームページ

<https://sites.google.com/view/59sf-shizuoka/>





いっしょに前に進もう

